汪楷編著『隴西金石録』所載鞏昌汪氏関連石刻資料目録

牛根　靖裕

モンゴル時代、隴西地方は鞏昌と呼ばれ、鞏昌便宜都総帥府が統括していた。鞏昌便宜都総帥府は、モンゴルのコデン王家の後ろ盾の下、現在の甘粛省定西市隴西県および漳県一体を根拠地としたオングート部の汪世顕が率い、1235 年以降モンゴル時代を通じて、彼の子孫達が鞏昌便宜都総帥に就いた。鞏昌便宜都総帥府の管轄域は鞏昌等処二十四城とも呼ばれ[1]、概ね現在の中華人民共和国の甘粛省の蘭州以東の地に相当する。

先年、その汪氏の根拠地であった隴西県を中心にした金石書である、汪楷編『隴西金石録』上下巻（甘粛人民出版社、2011 年）が新たに公刊された。本書は秦漢から 1948 年までの 442 件もの石刻資料や文物情報を載せ、13～14 世紀のものだけでも 70 件を数える。張維の『隴右金石録』（甘粛省文献徴集委員会鉛印、1943 年；以下『隴右』と略す）や、呉景山の『西北民族碑文』（甘粛人民出版社、2001 年；以下『西北』と略す）とともに、モンゴル時代の隴西地方を研究するに際しては、必見の資料といえよう。今回、この『隴西金石録』の中から、鞏昌汪氏関連の石刻資料 37 件の紹介を行ないたい。

編者の汪楷氏は、隴西県博物館に勤める金石学者で、隴西県・漳県の石刻資料について精力的に研究をされている。『汪氏族譜』（漳県図書館所蔵）、楊凌霄『隴西藝文集』、戴楚石氏（名は璞、楚石は字）の『隴右県志・金石編』（1964 年）等の現地の文献と、王樹民『隴游日記』内の「隴岷日記」（甘粛人民出版社、《甘粛文史資料選輯》第 28 輯）等、1930 年代の見聞記も活用しつつ、現地へ赴き碑や墓誌の状態を実見し、現状や所在といった貴重な情報を詳細に伝えてくれている。汪氏一族の墓は、甘粛省定西市漳県の東郊約 2.5km、徐家坪の漳河の支流である小井溝の川沿いにあり、かつては「汪古山麓」と称され、1243 年に汪世顕の墓所を設けて以来 1616 年まで、14 代 200 人余りが葬られている[2]。現在では国家級文物保護単位となっているが[3]、1972 年に農地開拓によって墓域南端の 7 座を整理することとなり、甘粛省博物館・漳県文化館によって汪惟簡・汪惟孝等の墓が発掘され、翌 73 年秋に雨水で墓域が崩れたことにより調査・整理対象を広げて、1979 年までに計 18 座の墓の発掘調査が行なわれた。今回紹介する数件の墓誌の外、資料的価値の高い副葬品・壁画等が多数出土している[4]。汪楷氏は、1985 年に数度

---

[1] 鞏昌二十四城については、松田孝一「チャガタイ家千戸の陝西南部駐屯軍団（上）」（『大阪国際大学　国際研究論叢』5-2、1992 年、pp. 67-86）；牛根靖裕「元代の鞏昌都總帥府の成立とその展開について」（『立命館東洋史学』24, pp. 85-132）；李治安「元鞏昌汪総帥府二十四城考」（『南開学報』哲学社会科学版、2010-2、pp. 92-97）を参照。

[2] 丘富科『中国文物旅游図冊』（文物出版社、2003 年）pp. 366-367。

[3] 定西地区志編纂委員会編『定西地区志』上巻（中華書局、2013 年）p. 244。

[4] 2010 年にメトロポリタン美術館の「the World of Khubilai Khan」展で展示された汪惟純（M9）墓の銅爵や陶盒、M13 墓の木棺・棕帽、汪惟賢（M20）墓の玻璃蓮花杯托・木案等があり、図版で写真を見ることができる（James C.Y. Watt, ed., *The World of Khubilai Khan: Chinese art in the Yuan Dynasty*, the Metropolitan Museum of Art, New York, Yale University Press, New Haven, 2010）。

に亘って漳県へ足を運び、汪氏に関連する碑や墓誌等も、すべて実見したという。

本書では現地の研究者の手による貴重な情報や、汪惟正神道碑・汪良臣墓・耶律氏墓誌・汪寿昌墓誌のような我が国初公開の碑影等が、ふんだんに載っている。しかし幾つか留意すべき点もある。先づ全体的に碑の写真や拓影は少なくて、サイズも小さく文字を判読し難い。墓誌の石に紙を被せ、文章箇所へ墨付けした状態を撮影していると思われるものや、トリミング加工がされているものがあり、石の状態・石質、形状、文字・模様等を視覚的に確認できないものがある。次に録文については、録文中に改行・空格・擡頭に関する情報はなく、かつ簡体字で刊行されているため、碑文を正確に復原することは困難となっている。ただし、ほかの資料との校勘を行ない補った箇所は〔　〕で括って示されているため、判別はし易くなっている。

汪氏一族は、鞏昌便宜都総帥府の管轄域全体に独裁的な勢力を有したのではなく、鞏昌府、平涼府、臨洮府、慶陽府、及び秦州など複数の地域の、「平凉知府元帥王公」のように金末以来の自衛軍事集団を世襲しつつ知府・知州として治める家々を束ね、コデン王家や他のオゴデイに連なる諸王家に仕えていたと考えられる。本書の汪氏関連碑文からは、彼らが鞏昌便宜都総帥府を構成する家々と互いに数世代に亘る婚姻関係等を結び、また陝西行省の高官たちや、コデン王家のあった永昌の官家、そして汪良臣の家のように王家とも婚姻関係を結んだことが明らかになる。そして大人数の題名が刻まれた碑や宗教施設の四至は当時の社会・官制・地名等をうかがわせる貴重な資料である。

以下に汪楷編『隴西金石録』所載の汪氏関連石刻資料の目録を記す。各項では、標題、立石年月、所在（掲載開始ページ）、録文・拓影・碑影、撰・書・額あるいは立石担当者、寸法、文字数と行数、碑額・碑陰・碑側・墓誌蓋の情報を挙げる。それとともに、『隴右』、『西北』に録文等の情報があれば取り上げ、余は備考として各項末に付した。また目録中に刻まれた文字を引用する際には、改行を「／」で表した。

本稿の末には、参考用に本書掲載のモンゴル政権関係者の立石した金碑(1)と元碑(57)、および『隴右』・『西北』所載の 13～14 世紀の隴西地方の碑とを並記した表を載せた。なお「重修府城隍廟令旨碑」と「宝慶寺約禁令旨碑」は、本書の示す立石年ではなく、修正すべき立石年の位置へ挿入している。詳細は両項の備考を参照いただきたい。

万寿禅寺碑　元初　逸失　(p. 30)

録文あり（上端のみ）　14 行

備考：文中には「鞏昌府僧尼都提領」、「便宜都総帥」、「皇太子」、「成吉思皇帝聖旨」という語が見える。太宗から憲宗の時代に、隴西県城内にあった万寿禅寺へ、「皇太子」のコデン、あるいはその子のメルギデイから与えられた保護を示していたと考えられる。

万巻楼記　至元 4 年 7 月（1267）　隴西県文化館（p. 31）

録文あり　高：61cm、寛：104cm、厚：22cm、18 文字×22 行

備考：1964 年隴西県城西門の墻より出土。汪楷「万巻楼記考釋及其価値」（『隴右文博』1999 年第 2 期）を参照。

総帥汪世顕神道碑　至元 4 年（1267）　隴西県城南外の大碑院（隴西公祠堂）（p. 32）

録文あり　楊奐 撰、潘珍 書　文頭原題：「故鞏昌路便宜都総帥本路兵馬都総管知府事贈隴西義武公汪公神道碑」

『隴右』：汪義武公神道碑　（［目録：楊英 撰］隴西城南、11 葉裏、録文あり、按文「碑高二丈二尺、寛五尺余、厚尺余。上有碑額、下有碑座。」）

『西北』：隴西県汪義武公神道碑　(p. 104)

備考：碑石は漢白玉質。1964 年には良好な状態であったが、後に破砕。『汪氏族譜』、『隴西藝文集』にも録文有り。掲載録文は中華書局点校本『元朝名臣事略』によって作成。

総帥汪徳臣神道碑　至元 4 年（1267）　隴西県城南外の大碑院（隴西公祠堂）(p. 34)

録文あり　王鶚 撰、商挺 書　文頭原題：「故鞏昌路便宜都総帥本路兵馬都総管知府事贈隴西忠烈公汪公神道碑」

『隴右』：汪忠烈公神道碑　（隴西城南、14 葉裏、録文、按文「碑高二丈二尺、寛五尺余、厚尺余。碑額・碑座完好。」）

『西北』：隴西県汪忠烈公神道碑　(p. 114)

備考：汪徳臣（1222-1259）は汪世顕の第二子。1964 年には良好な状態であったが、後に破砕。『汪氏族譜』、『隴西藝文集』に録文有り。掲載録文は『隴右』の録文によって作成。

宝慶寺約禁令旨碑　至元 12 年（1275）〔大徳 3 年（1299）の誤り〕　逸失（p. 38）

録文あり

備考：コデン王家の投手と考えられる「察忽眞妃子」と「捏木烈大王」が発した令旨の白話風漢語訳の碑。宝慶寺の寺産保護を命じ、鞏昌府住持福講主に、福智円明大師の号、金襴袈裟、鎖金翠傘、金印を与える内容。宝慶寺は現在の隴西県北関の鞏昌鎮の民族小学校の地にあった。立石年は、胡小鵬「元諸王念不烈考」（同氏『西北民族文献与歴史研究』甘粛人民出版社 2004 年、pp. 136-145、初出『中国史研究』2001-1）により、大徳 3 年（己亥）とすべき。掲載録文は『(乾隆) 隴西県志』巻 12、雑識「拾遺」の録文に拠る。

重修府城隍廟令旨碑　至元 19 年（1282）〔至元 31 年（1294）の誤り〕　逸失（p. 38）

録文あり

『隴右』：鞏昌府城隍廟令旨碑　（隴西城隍廟、9 葉、録文あり）

備考：コデン王家の「志璘真大王」が、鞏昌府の官へ城隍廟修築を命じた令旨の白話風漢語訳の碑。立石年は、杉山正明「東西文献によるコデン王家の系譜」（同氏『モンゴル帝国と大元ウルス』京都大学出版会、2004 年、pp. 457-489、初出『史窗』48）に従い至元 31 年とすべき。掲載録文は『(乾隆) 隴西県志』巻 12、雑識「拾遺」の録文に拠る。

隴西公祠堂遺愛碑　至元 19 年 10 月（1282）　久已不存（p. 39）

録文あり　王利用 撰（『隴右』：汪利用 撰）

『隴右』：汪義武公遺愛碑（隴西、14 葉表、録文無し）；汪氏祠堂碑（隴西、19 葉裏、録文あり）

『西北』：隴西県汪義武公遺愛碑（p. 108、録文無し）

備考：『隴右』のほか、『(宣統) 甘粛新通志』、『隴西金石採訪録』は「汪義武公遺愛碑」と、『隴西藝文集』は「汪氏祠堂碑」と項を立てるが、汪楷は両者を同じ碑とする。掲載録文は『汪氏族譜』に拠る。

中書左丞汪惟正神道碑　至元23年（1286）　隴西県城南外の大碑院（隴西公祠堂）（p. 40）

録文、碑身写真あり　商挺 撰并書、高凝 篆額　高：284cm、寛：139.5cm 厚：40cm　83字×33行　螭首あり、碑座逸失　碑陽：「大元故資政大夫中書 / 左丞行陝西四川中書 / 省貞粛汪公神道之碑」（3行27字）、碑陽左端「集賢学士太中大夫宋渤書」

『隴右』：汪貞粛公神道碑（隴西城南、19葉表、録文無し）

『西北』：隴西県元貞粛汪公神道碑碑陽（p. 120：録文無し）；隴西県元貞粛汪公神道碑碑陰（p. 121）

備考：県級文物保護単位。汪惟正（1242-1285）は汪徳臣の長男で、至元年間の汪氏を代表する人物。『汪氏族譜』、張維『隴右金石録補』巻1（甘粛省文献徴集委員会鉛印本、1943年、pp. 54-56）に録文有り。碑身中央にある大きな亀裂と剥落をセメントで補修。掲載録文は神道碑に基づき、『汪氏族譜』、『元史』巻155「汪惟正伝」と校勘して補う。

鞏昌路総管府同知李節神道碑　至元27年（1292）　逸失（p. 44）

録文あり　姚燧 撰

『隴右』：鞏昌路同知総管府事李公神道碑（隴西県、21葉裏、録文あり）

備考：李節は隴西県における汪世顕の協力者。息子の李庭玉（『元史』巻162「李忽蘭吉伝」）は、汪徳臣とともにコデンのケシクへ質子として入り、娘は汪世顕の第五子、汪翰臣の妻となる。本文は姚燧『牧庵集』巻21にもある。掲載録文は『隴右』に拠る。

中書左丞汪良臣墓碑　至元年間　漳県博物館（p. 47）

録文、碑影あり　高：129cm、寛：64cm、厚：15cm　碑陽全文「大元駙馬資善大夫 / 中書左丞行四川省 / 事贈儀同三司中書 / 右丞謚忠恵汪公墓」（4行32字）

備考：汪良臣（1231-1281）は汪世顕の四男。公主を迎え駙馬となる。中統～至元年間前半における汪氏の中心人物の一人。没後、梁国公に追封され、忠恵と謚される。1990年代に漳県汪家墳元墓群で出土。墓碑の下部には墓碑を固定するための枘（ほぞ）がある。

総帥汪惟和神道碑　至元年間後期　明初に毀壊（p. 48）

録文無し　形状不明

『隴右』：汪文貞公神道碑（隴西城南、19葉表）

備考：汪惟和は汪徳臣の第三子。汪惟正之弟。汪惟正没後の鞏昌都総帥府の代表者。この碑は、従来地方志などに「汪文貞公神道碑」として名を挙げられていたもので、『隴右』をはじめ汪文貞公を、汪惟正の第二子、汪寿昌としているが、汪楷氏は『汪氏族譜』の楊連「惟賢惟和二公伝」（『漳県志』巻8、藝文志にもある）に従い、汪文貞公は汪惟和であると正す。碑は、洪武2年に4月に鞏昌府を攻囲した明軍によって倒されている。

副総帥汪忠臣神道碑　元貞2年（1296）　逸失（p. 50）

録文あり　姚燧 撰

『隴右』：汪忠譲公神道碑（漳県、29葉表、録文、）

『西北』：漳県汪忠譲公神道碑（p. 109）

備考：汪忠臣（1219-1266）は汪世顕の長子であり、汪徳臣の同母兄。碑は失われて久しいが、姚燧の著した本文は、「便宜副総帥汪公神道碑」として蘇天爵『国朝文類』巻62、

姚燧『牧庵集』巻16、『新安文献志』巻96下などに載る。掲載録文は、『隴右』に基づき、屠寄『蒙兀兒史記』巻64「汪忠臣伝」に拠って補っている。

中書右丞行四川省事汪惟孝墓誌　大徳元年（1297）9月22日立石　漳県博物館（p. 53）

録文、拓影、墓蓋写真あり　26文字×39行　樊珏 撰、汪復昌 刊石　文頭原題：「大元龍虎衛上將軍中書右丞四川行省事便宜都総帥汪公壙誌」　墓誌蓋「汪公 / 壙誌」

備考：汪惟孝（1246-1297）は汪世顕の第三子汪直臣の子。1973年秋に漳県汪家墳元墓群で出土。「甘粛漳県元代汪世顕家族墓葬　簡報之二」（『文物』1982-2、p. 21）にも拓影あり。

中書左丞汪惟正夫人耶律氏墓誌　大徳8年（1304）3月20日　漳県博物館（p. 55）

録文、墓誌拓影、墓誌蓋拓影あり　一辺：65cm、厚：8cm　24文字×24行　墓誌蓋「大元故中書左 / 丞行省謚貞粛 / 汪公貞善夫人 / 耶律氏之墓誌」

『西北』：漳県元中書左丞汪惟正夫人耶律氏墓誌蓋（p. 128）；漳県元中書左丞汪惟正夫人耶律氏墓誌銘（p. 129）

備考：汪惟正の妻耶律氏（1242-1304）は、耶律素材の孫であり、耶律鋳の長女にあたる。漳県汪家墳元墓群で出土。墓誌の前半は、夫の汪惟正の事績を刻む。

大司徒汪惟賢夫人祁氏墓誌　大徳10年（1306）10月23日　漳県博物館（p. 56）

録文、拓影、墓誌蓋写真あり　墓誌蓋 一辺：70cm、厚：7cm；墓誌 68cm×70cm、厚さ8.5cm　24文字×24行　墓誌蓋篆刻「大元故栄禄 / 大夫大司徒 / 汪公之墓誌」　文頭原題「大元栄禄大夫大司徒汪公夫人祁氏之墓」

『西北』：漳県元栄禄大夫大司徒汪惟賢夫人祁氏墓誌（p. 132）

備考：汪惟賢（1249-1306）の妻祁氏（1249-1306）は臨洮の望族祁氏の出身で、父は臨洮元帥の肩書きを有す。1973年秋に漳県汪家墳元墓群で出土。「甘粛漳県元代汪世顕家族墓葬　簡報之二」（『文物』1982-2、p. 21）にも「汪惟賢墓誌」として拓影が掲載されている。なお祁氏は重修府城隍廟碑記の題名にも名を残す。

喬木堂記　至大3年（1310）　不詳（p. 57）

録文あり　姚燧 撰

備考：本文は姚燧『牧庵集』巻8「喬木堂記」を基に、同名の碑があったと想定して立てられた項目。「喬木堂記」が刻まれた碑の存在については情報無し。喬木堂記は、汪忠臣の子 惟益（惟易とも）の子、汪安昌が建てた堂。

鞏昌等処宣慰司事兼権総帥汪惟純墓誌　至治2年（1322）6月7日　漳県博物館（p. 60）

録文、墓誌拓影、墓誌蓋影あり　汪延昌兄弟 刊石　墓誌蓋 一辺：72cm、厚：15cm　墓誌 一辺：72cm、厚：13cm　35文字×34行　墓誌蓋「大元安遠[大将軍] / 鞏昌等処宣慰使 / 司事権便宜都総 / 帥済斎汪公壙誌」（[大将軍]は汪楷氏が補ったもの）

『西北』：漳県元安遠大将軍汪惟純墓誌蓋（p. 134）；漳県元安遠大将軍汪惟純墓誌（p. 135）

備考：汪惟純（1257-1295）は汪徳臣の第六子、汪惟正、汪惟賢、汪惟和の弟である。1973年秋に漳県汪家墳元墓群で出土。「甘粛漳県元代汪世顕家族墓葬　簡報之一」（『文物』1982-2、p. 2）に墓誌蓋の写真がある。盗掘にあっていたためか、1982年の写真では、

墓誌蓋は既に大きな亀裂があったが、本書 61 頁の写真では右下が大きく欠けている。録文は拓本に基づき、墓誌を実見して校勘。

征西都元帥汪惟永墓誌　泰定 2 年（1325）7 月 18 日　武山県博物館（p. 62）

録文あり　陳世栄 撰、汪震昌 刊石、石匠陳才　文頭原題「大元故鎮国上将軍征西都元帥汪公神道之墓誌」

備考：汪惟永（1262-1323）は汪良臣の第五子。1990 年代に隴西県東南武山県四門郷で出土。

重修鞏昌府仁寿山関侯廟碑　泰定 3 年（1326）5 月 15 日　逸失（p. 63）

録文あり　同恕 撰（『隴右』：司恕 撰）、汪寿昌 書、汪延昌 篆額

『隴右』：仁寿山関侯廟碑（隴西南山寺、54 葉表、録文、按文「高一丈、広三尺余」）

備考：1960 年代まで碑は残存していたが、その後、逸失。仁寿山は隴西県西郊の山で、唐以来多くの寺観が建立された地。録文は『隴西藝文集』の録文に基づき、『隴右』で校補している。同恕の著した本文は『榘菴集』巻 3 に「関侯廟記」として載る。

重修府城隍廟碑　天暦 2 年（1329）　逸失（p. 64）

録文あり　孫徳彧 撰、「将士佐郎征西都元帥府知事□□□」篆額　『隴西県志・金石編』：「原碑高 4.5 尺、寛 2.5 尺」　74 字×23 行

備考：1964 年刊行の戴楚石『隴西県志・金石編』の記載では、隴西県の景家橋街府隍廟にあったという。題名に天暦の乱に関わる直前の汪氏一族の名が多数列挙されている。掲載録文は戴楚石氏が録文していたものを『元史』等関連資料に照らして補っている。

隴州知州汪懋昌墓誌　天暦 2 年（1329）5 月 4 日　漳県博物館（p. 65）

録文、墓誌碑影、墓誌蓋碑影あり　墓誌蓋 73cm×72cm、厚：17cm；墓誌 70cm×71cm、厚：9cm　23 文字×23 行　墓誌蓋：中央に「壙誌」と篆書で陽刻　墓誌：文頭原題「奉直大夫前隴州知州兼管本州諸軍奥魯勧農事汪公墓 / 前壙誌」

『西北』：漳県元奉直大夫隴州知州汪懋昌墓誌（p. 147）

備考：汪懋昌（1292-1329）は、汪良臣の孫であり、汪惟勤の長子。1973 年秋に漳県汪家墳元墓群で出土。「甘粛漳県元代汪世顕家族墓葬　簡報之一」（『文物』1982-2、p. 6）に墓誌と墓誌蓋の写真がある。

保寧等処万戸汪惟簡墓誌　天暦 3 年（＝至順元年　1330）3 月 21 日　漳県博物館（p. 67）

録文、拓影、墓誌蓋写真あり　汪智昌 立石　35 文字×36 行　墓誌蓋「汪公 / 墓誌」

『西北』：漳県元明威将軍汪公惟簡壙誌蓋（p. 142）；漳県元明威将軍汪公惟簡壙誌（p. 143）

備考：汪惟簡（1262-1329）は汪良臣の第二子。墓誌は右上八分の一ほどが欠けている。本文は多くの婚姻関係が記されているほか、汪惟簡の長子の汪義昌が「曲律禄大王令旨」を、次子の汪棣昌が「隴王令旨」を、それぞれ敬受して任官する例が記されており、14 世紀の隴西地方における諸王の権益を考察する上で、重要な資料となる。

重修鞏昌府学宮銘碑　元統 3 年（1335）2 月　隴西県図書館（p. 69）

録文、拓影あり　趙公諒 撰、李維則書・篆額

備考：元々は鞏昌府文廟（現在の隴西第一中学）にあったが倒れ、隴西県図書館には断片が収蔵されている。碑文は鞏昌都総帥汪有成による文廟および学宮の修築事業を記念している。「重修鞏昌府仁寿山関侯廟碑」とともに、汪氏の文化事業を見ることが出来る。

大司徒汪寿昌墓誌　至正8年（1348）4月27日　漳県博物館（p.74）

録文、碑、墓誌蓋写真あり　一辺：77cm、厚：11cm　墓誌蓋「大元故 / 大司徒 / 汪公墓」

『西北』：漳県元銀青栄禄大夫大司徒汪寿昌墓誌蓋（p.149）；漳県元銀青栄禄大夫大司徒汪寿昌墓誌（p.150）

備考：汪寿昌（1273-1347）は汪惟正の第二子、母は耶律氏。14世紀前半の汪氏の中心人物（虞集『道園学古録』巻6「隴右王汪氏世家勲徳録序」）の墓誌。漳県汪家墳元墓群で出土。

大司徒汪寿昌神道碑　至正8年（1348）正月11日　不存（p.76）

録文無し

備考：前掲の汪寿昌の神道碑。元来は隴西県城南外の大碑院（隴西公祠堂）にあったと想定されている。録文・撰文者等の情報が無く、早くに逸失したと考えられる。

興国寺常住碑記　至正9年（1349）8月　所在明記せず（p.77 +拓影）

録文、碑陽・碑陰・両碑側の拓影あり　宝塔寺弘法 辯口大師普憐 書丹并篆額、広恵雄辨大師　神 立石諄方首、碑石下部に枘あり

備考：1990年代に出土。興国寺は隴西県城内（創建は北宋時代）と、隴西県の西約60里の双輪磨（今は渭源県路園鎮）に寺領を有していたが、本碑は後者に関するもの。双輪磨は民国33年（1944）に、隴西県から渭源県へ編入。本碑は、おそらくは利州の益昌城（現在の四川省広元市）を拠点に四川計略に従事していた汪徳臣の招致によって、四川から隴西へ来た沙門の了愷が丁巳年（1257）に開基した双輪磨の興国寺を、至正9年に重修したことを記念する。碑陽は至正九年（1349）8月とするが、寺田の所在、四至を記す碑陰には、「至正十四年」の年も見える。また碑陰および碑則には、興国寺・妙華寺・皇慶寺・広福寺・楞厳寺・太清観・太清宮といった地元の寺観、汪氏も含めた近隣の諸官府の官、有力者約500名の題名が記されている。

臨洮府達魯花赤汪源昌墓誌銘　至正10年（1350）3月　漳県博物館（p.83）

録文、拓影、墓誌蓋碑影あり　陳世栄 撰　墓誌蓋 一辺：63cm、厚：12.5cm　墓誌 一辺：64.5cm、厚：10cm　25文字×24行　墓誌蓋「元故奉訓 / 大夫汪 / 公之墓」（元を1字擡頭）文頭原題「有元故奉訓大夫臨洮府達魯花赤汪公墓誌銘」

『西北』：漳県元奉訓大夫臨洮府達魯花赤汪源昌墓誌蓋（p.155）；漳県元奉訓大夫臨洮府達魯花赤汪源昌墓誌（p.156）

備考：汪源昌（1295-1350）は汪良臣の孫であり、汪惟勤の第二子。前掲の汪懋昌の弟にあたる。1973年秋に漳県汪家墳元墓群で出土。「甘粛漳県元代汪世顕家族墓葬　簡報之一」（『文物』1982-2、p.2）に墓誌蓋の写真がある。

重修通安站記　至正11年（1351）8月　隴西県博物館（p.84）

録文、拓影あり　呉友文 撰　圭首　高：70cm、寛：48cm、厚10cm　25文字×18行

備考：通安站は隴西県と北の定西州の間にあった駅伝拠点の一つで、「臨洮・鞏昌・通安等十站」として『永楽大典』所引の『経世大典』や『元史』(站を駅とする) に見える。1970年代に隴西県の「東城巷附近的北墻根」で出土したが、東巷村の農民王双定氏が自宅に運び込んでいたものを、2004年8月に隴西県博物館の石刻調査で再発見され、協議の末、博物館へ移管されたという。碑の中央部は摩耗しており、文字の判読は困難。

吐蕃等処宣慰司副使都元帥汪舜昌墓誌　至正11年（1351）　漳県博物館（p. 85）

録文、拓影あり　陳世栄 撰、鞏昌府漳県儒学教諭□僧 書、胡文玉 刻　方形、一辺：61cm、厚：7cm　23文字×27行（1行目「大元」、9行目「京」を1字擡頭；10行目「綸音」を2字擡頭するため最大で一行25字）

『西北』：漳県元武節将軍汪舜昌墓誌蓋（p. 158）；漳県元武節将軍汪舜昌墓誌（p. 159）

備考：汪舜昌（1292-1351）は、汪惟純の第四子。漳県汪家墳元墓群で出土。

達州同知□公之碑　至正15年（1355）8月　隴西県腰門街人家外屋檐下（p. 87）

録文あり

備考：碑は切断されており、上断片の所在は不明。録文のあるのは下断片。文中に「貞粛南安王之遺愛祠」という語句が見える。「貞粛南安王」は汪惟正の諡と追封された爵であり、本碑も汪氏に所縁のある人物に関連する碑と考えられる。

創修仁寿山普光禅院功徳碑　至正17年（1357）正月　隴西県威遠楼（県の中心の鐘鼓楼）（p. 88）

録文、碑影あり　本山住持法珍・合寮法乳等立石、都功徳主中奉大夫鞏昌等処都総帥兼鞏昌府尹汪□、王琪 刊　方首　高：109cm、寛：69cm、厚：19cm

備考：隴西県西城門付近の譚文孝氏の家にあり、長らく碑陽を下にした状態で倒れていた。譚氏が家屋を建て直す際に、汪楷氏らの知るところとなり、交渉の末、県政府へ寄贈された。「興国寺常住碑記」と同様に、碑陰の題名には近隣の寺観、官府、市井の有力者たちの名が残っている。

天詔加封祖真之碑　至正22年（1362）　隴西県仁寿山公園隴西堂大殿裏（p. 93）

録文、拓影あり　完顔徳明・楊維慶 立石　高：264cm、寛：82cm、厚：19cm　亀趺あり。碑首は逸失頷（『隴右』は額に「加封祖真詔五」とあったと記録している）

『隴右』：隴西南山七真碑（隴西仁寿山、80葉裏、録文×8）

備考：至元6年の世祖クビライの漢文聖旨1通と、至大3年2月の年紀のある武宗カイシャンの漢文聖旨4通を合刻している。『隴右』「隴西南山七真碑」の碑陽として記されている5通の聖旨にあたる。『隴右』の按文にあるように、天水市秦州区の玉泉観の「至大詔書碑」（陳垣・陳智超編『道家金石略』文物出版社、1988年、pp. 729-731）の5通の至大3年聖旨のうち、1～4番目と同文のものを、至元6年聖旨を加えて立碑している。同様の碑には、西安市戸県祖庵鎮の重陽万寿宮の「褒封五祖七真制辞」（延祐4年）もあるが、至元6年聖旨を合璧する点、完顔徳明と楊維慶が立石に関わっている点、立石年が至正22年という点でも『道家金石略』の注に挙げられる「大元崇道詔書之碑」との関連が想定される。掲載録文は、碑と隴西図書館所蔵の拓本とを対校して作成。

天詔加封真人之碑　至正 22 年（1362）　隴西県仁寿山公園隴西堂大殿裏（p. 96）

録文、碑身全景写真あり　完顔徳明・楊維慶 立石　碑首は逸失額（『隴右』は額に「加封真人詔四」とあったと記録している）

『隴右』：隴西南山七真碑（隴西仁寿山、80 葉裏、録文×8）

備考：前掲「天詔加封祖真之碑」の碑陰。至大 3 年 2 月の年紀のある武宗カイシャンの漢文聖旨 4 通を合刻している。『隴右』「隴西南山七真碑」の碑陰として記されている 4 通の聖旨にあたる。『隴右』の按文にあるように、天水市秦州区の玉泉観の「天詔加封祖真之碑」（陳垣・陳智超編『道家金石略』文物出版社、1988 年、pp. 731-733）と同じものを立碑している。なお、玉泉観の「天詔加封祖真之碑」の立石者は汪寿昌（『道家金石略』は王寿昌としている）。

翰林直学士汪公墓碑　至正年間（p. 100）

備考：墓碑の形状や所在に関する情報は無し。汪楷氏は『汪氏族譜』に記されている汪氏一族で、翰林直学士となった人物は汪晋昌ただ一人であることに基づき、被葬者を汪晋昌に比定している。

重修関帝廟碑記　元代　隴西県威遠楼（県の中心の鐘鼓楼）（p. 100）

録文あり　孫徳彧 撰

備考：碑石は割れており、本碑は碑陽から見て原碑の下部右側部の残碑と思われる。ほかの断片は不明。本書の備考欄によると、残碑は高：140cm、寛：69cm、厚：85cm、20 行が残存しており、各行 8〜40 字が見える。書または額を書いた人物の肩書に「将士郎・征西都元帥□□」と見える。征西都元帥府は汪氏一族の任官例が多いため挙げる。

題名残碑　元代　（p. 102）

碑陰録文あり　残高：98cm、寛：73cm、厚：不明　上下 10 段、各段 29 名

備考：原碑は隴西県北関祁家花園の人家の「門前」にあり、分断されて人に踏まれる状態であったという。上部断片は不明。碑陽は人に踏まれる状態にあったため摩耗し、文字は判読困難とのこと。汪氏のみならず鞏昌便宜都総帥府の関係者と思われる人物の名が数多く挙がっている。立石年代は不明であるが、天暦 3 年 3 月に死去している汪惟簡の名が見えるため、1330 年以前の立石であろうか。

某某廟題名碑　元代　隴西県城北城濠（p. 104）

録文あり

備考：本書の備考によると、原碑は裁断されて隴西県景家橋街医薬公司裏門の墻に填め込まれていた。2002 年に道路拡張のため医薬公司が解体されたときに一旦消失し、後に北城濠に埋め込まれているのが確認されたとのこと。残碑には多くの鞏昌便宜都総帥府関係者や近隣の宗教関係者等の人名リストと、廟産の四至等が記されており、地方官制、宗教、地名、地方社会に関する貴重な資料である。録文は、汪楷氏と戴楚石氏とが 1997 年夏に実見し抄録したもの。

（うしね　やすひろ）

	年 次	汪楷『隴西金石錄』	撰者・書者	張維『隴右金石錄』	吳景山『西北民族碑文』
1	金代	檢校司徒何紹祖碑			
2	元初	万寿禪寺碑			
3	至元4年(1267)	万卷樓記			
4	至元4年(1267)	総帥汪世顯神道碑	楊奐 撰 潘珍 書	汪義武公神道碑	隴西県汪義武公神道碑
5	至元4年(1267)	総帥汪德臣神道碑	王鶚 撰 商挺 書	汪忠烈公神道碑	隴西県汪忠烈公神道碑
6	至元19年(1282)	隴西公祠堂遺愛碑	王利用 撰	汪義武公遺愛碑 汪氏祠堂碑	隴西県汪義武公遺愛碑
7	至元23年(1286)	中書左丞汪惟正神道碑	商挺 撰并書 高凝 篆額	汪貞肅公神道碑	隴西県元貞肅汪公神道碑碑陽 隴西県元貞肅汪公神道碑碑陰
8	至元27年(1292)	鞏昌路総管府同知李節神道碑	姚燧 撰	鞏昌路同知総管府事李公神道碑	
9	至元19年(1282) [至元31年(1294)]	重修府城隍廟令旨碑		鞏昌府城隍廟令旨碑	
10	至元			平六盤碑	
11	至元	張清河神道碑			
12	至元	中書左丞汪良臣墓碑			
13	至元				漳県元栄禄大夫大司徒汪惟賢墓誌蓋
14	至元	総帥汪惟和神道碑		汪文貞公神道碑	
15	元貞元年(1295)	三皇廟碑記			
16	元貞2年(1296)	副総帥汪忠臣神道碑	姚燧 撰	汪忠諒公神道碑	漳県汪忠諒公神道碑
17	大德元年(1297)				漳県元龍虎衛上将軍汪惟易壙誌
18	大德元年(1297)	中書右丞行四川省事汪惟孝墓誌	樊珏 撰 汪復昌 刊石		
19	至元12年(1275) [大德3年(1299)]	宝慶寺約禁令旨碑			
20	大德3年(1299)	広福大師瑠璃舎利塔題識			
21	大德6年(1302)				成県金蓮洞修建始末碑
22	大德6年(1302)				成県金蓮洞臨舎地土四至聖旨碑
23	大德8年(1304)	中書左丞汪惟正夫人耶律氏墓誌			漳県元中書左丞汪惟正夫人耶律氏墓誌蓋 漳県元中書左丞汪惟正夫人耶律氏墓誌銘
24	大德10年(1306)	大司徒汪惟賢夫人郭氏墓誌			漳県元栄禄大夫大司徒汪惟賢夫人郭氏墓誌
25	至大3年(1310)	喬木堂記	姚燧 撰		
26	延祐3年(1316)	延祐三年木質榜題			
27	延祐6年(1319)	薛文玉地券磚			
28	延祐	鞏昌安懿王完澤神道碑		鞏昌安懿王完澤神道碑	
29	至治2年(1322)	鞏昌等処宣慰司事兼権総帥汪惟純墓誌	汪延昌兄弟 刊石		漳県元安遠大将軍汪惟純墓誌蓋 漳県元安遠大将軍汪惟純墓誌
30	泰定2年(1325)	征西都元帥汪惟永墓誌	陳世栄 撰 汪霞昌 刊石		
31	泰定3年(1326)	重修鞏昌府仁寿山閑侯廟碑	伺恕 撰 汪寿昌 書 汪延昌 篆額	仁寿山閑侯廟碑	
32	天歴2年(1329)	重修府城隍廟碑	孫德彧 撰		
33	天暦2年(1329)	隴州知州汪懋昌墓誌			漳県元奉直大夫隴州知州汪懋昌墓誌
34	至順元年(1330)	保寧等処万戸汪惟簡墓誌			漳県元明威将軍汪公惟簡壙誌蓋 漳県元明威将軍汪公惟簡壙誌
35	至順3年(1332)				天水関子郷玉陽観廟碑
36	元統3年(1335)	重修鞏昌府学宮銘碑	趙公涼 撰 李維則書・篆額		
37	(後)至元3年(1337)				天水汪川郷太祖山行祠記碑 (p. 168)
38	(後)至元3年(1337)	都転運塩使知渠堰事張庭祐墓誌銘			
39	至正4年(1344)	雲南諸路粛政廉訪使顔公墓碑			
40	至正5年(1345)	興建広慈寺大殿功德碑			
41	至正7年(1347)	顯密大師瑠璃舎利塔銘記			
42	至正8年(1348)	陝西中書省左丞伯不花墓碑			
43	至正8年(1348)	大司徒汪寿昌墓誌			漳県元銀青栄禄大夫大司徒汪寿昌墓誌蓋 漳県元銀青栄禄大夫大司徒汪寿昌墓誌
44	至正8年(1348)	大司徒汪寿昌神道碑			
45	至正9年(1349)	千陽県尹楊公墓碑			
46	至正9年(1349)	興国寺常住碑記	弘法 撰 普濤 書丹并篆額		
47	至正10年(1350)	臨洮府達魯花赤汪源昌墓誌銘	陳世栄 撰		漳県元奉訓大夫臨洮府達魯花赤汪源昌墓誌蓋 漳県元奉訓大夫臨洮府達魯花赤汪源昌墓誌
48	至正11年(1351)	商州同知李興□墓碑			
49	至正11年(1351)	重修通安站記	呉友文 撰		
50	至正11年(1351)	吐蕃等処宣慰司副使都元帥汪舜昌墓誌	陳世栄 撰 □僧 書		漳県元武節将軍汪舜昌墓誌蓋 漳県元武節将軍汪舜昌墓誌
51	至正15年(1355)	達州同知□公之碑			
52	至正16年(1356)	乾州分千戸印			
53	至正17年(1357)	創修仁寿山普光禪院功德碑	法珍・法乳等立石		
54	至正17年(1357)	貴状元神道碑			
55	至正22年(1362)	天詔加封祖真之碑	完顔德明 楊維慶 立石	隴西南山七真碑	
56	至正22年(1362)	天詔加封真人之碑			
57	至正22年(1363)	重修玄都万寿宮碑	王涓 撰	重修玄都観碑	
58	至正	至正銅壺滴漏			
59	至正	翰林直学士汪公墓碑			
60	元代	玉清観碑		玉清観碑	
61	元代	重修関帝廟碑記			
62	元代	題名残碑			
63	元代	承事郎寧遠県尹張公墓碑			
64	元代	某某廟題名碑			
65	至正	鞏昌府□□牟公墓碑			
66	元代			石泉洞題詩	